

第2章 現況と課題

2 - 1 前提条件の整理

(1) 市の概要等

市の位置

本市は茨城県のほぼ中央部に位置し、東京都心から約 80km、県都水戸から約 20km の距離にあり、業務核都市の土浦、つくばには約 20km の距離にある。

また、市の南部は、湖では日本で第 2 位の広さを誇る霞ヶ浦に面している。

総面積	14,021ha
可住地面積	11,799ha
都市計画区域面積（公有水面を含む）	14,162ha
用途地域	512.3ha



図：都市整備課

市のシンボル等

【市章】

円で小美玉市の英頭文字の「O」と美玉の「M」「T」を兼ね
図案化。躍動する3曲線で3町村の合併を表し、豊富な緑、
霞ヶ浦の自然に包まれた土地に輝く人が共に手を取り、交流を
深める姿を象徴として、市の無限の向上発展を表現している。



【市の花】

コスモス

市内各地に植えられている。たおれても起き上がる姿が力強
く清楚で、語源（cosmos=宇宙、世界、調和）から本市の平和
な発展を願うにふさわしい花である。



【市の木】

ケヤキ

大地にしっかりと根を張り、放射状に大きく枝を張る姿は
雄大である。力強く空へ向かって成長していく姿が、将来へ
向け伸びゆく本市にふさわしい木である。



【市の鳥】

シラサギ

市内の水辺周辺に生息し、市民に親しまれ気品があり、優雅に
羽を広げ大空にはばたく姿が美しい。清らかに飛躍する本市に
ふさわしい鳥である。

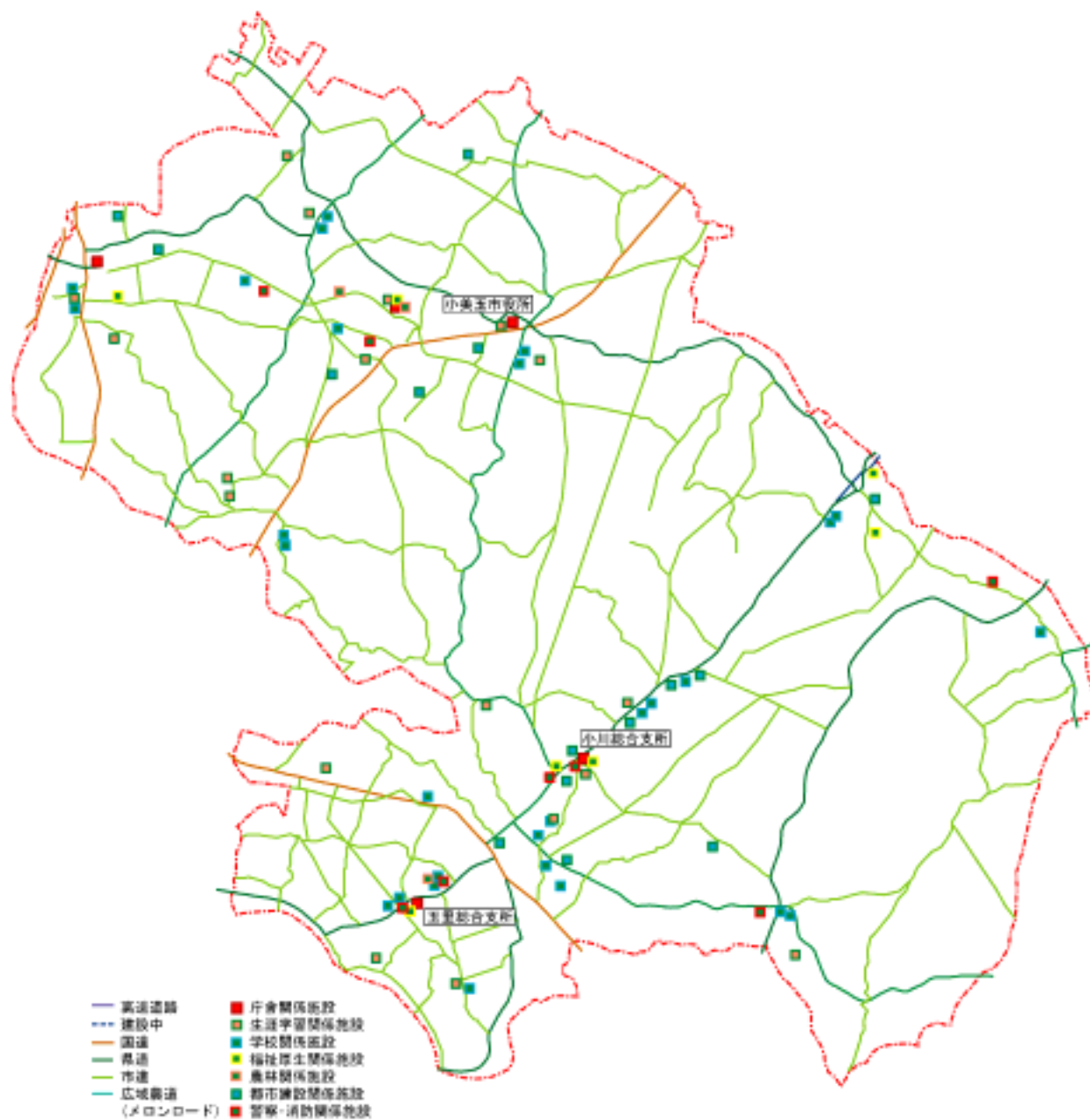


(2) 公共施設の配置状況

合併前の旧町村毎に主要な公共施設が整っている。

現在は、美野里地区に市役所、小川地区及び玉里地区にそれぞれ総合支所が配置されている。

特に小川地区及び玉里地区においては、総合支所を中心としてその付近に公共施設が配置されている。



(3) 観光資源の分布状況

本市の観光資源は、豊かな水を湛える霞ヶ浦に加え、春に優美な姿を見せる国道6号沿いの桜並木や、すがすがしさを感じさせる夏の蓮、希望ヶ丘公園周辺に広がる一面のコスモス畑、冬には白鳥が飛来する池花池など、特に自然的観光資源に恵まれている。また、市内には数多くの文化財等があり、歴史的・文化的観光資源も有している。

さらに、百里飛行場（茨城空港）周辺においては、航空自衛隊の訓練飛行を見学するため、県内外から多くの人々が訪れており、今後整備される百里飛行場（茨城空港）の民間共用化、及び（仮称）空港公園などについては、本市の新たな観光資源としての期待が高まるところである。



(4) 開発動向

現在、平成21年度の開港に向けた百里飛行場（茨城空港）及び周辺整備の開発が進められている。

百里飛行場（茨城空港）西側のターミナル周辺地区には、全国から訪れる人々に対し、百里飛行場（茨城空港）を「首都圏の北の玄関」として印象づけるため、シンボリックなエリアとして「（仮称）空港公園」の整備が進んでいる。また、百里飛行場（茨城空港）東側隣接地においては、約52ヘクタールにも及ぶ臨空型の産業団地「茨城テクノパーク」の整備が進められている。

さらに、百里飛行場（茨城空港）へのアクセス機能の強化のため、東関東自動車道水戸線や常磐自動車道から百里飛行場（茨城空港）への連絡道路となる県道上吉影岩間線バイパスなど、主要な幹線道路の整備も進められている。

また、県内で唯一の臨空型という特徴や、周辺道路の整備によるポテンシャルを生かし航空関連産業や流通産業等の企業誘致を図ることで、市民の新たな雇用の拡大及び、優良企業の誘致による活発な経済効果なども期待されている。

百里飛行場（茨城空港）イメージ図



茨城テクノパークイメージ図

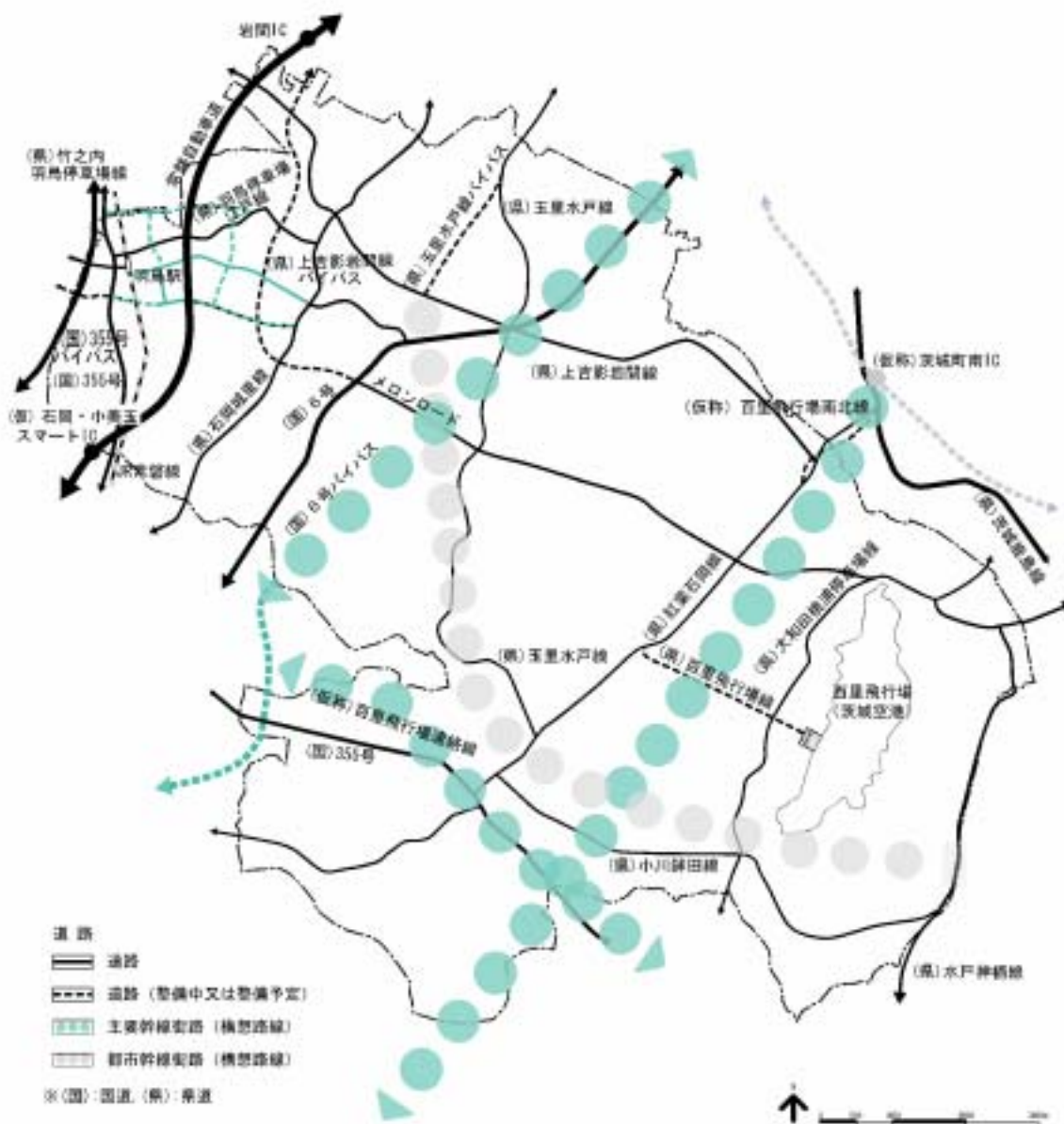


図：茨城空港ホームページ

(5) 道路網の状況

本市の幹線道路網は、東部常磐自動車道、国道6号、国道355号をはじめ、主要地方道4路線、一般県道7路線を主要幹線道路の基軸として、地域間の連携・交流を支える重要な役割を担っている。

なお、平成21年度に開港予定である百里飛行場（茨城空港）へのアクセス機能の強化のため、東関東自動車道水戸線や、常磐自動車道から百里飛行場（茨城空港）への連絡道路となる県道上吉影岩間線バイパスなど、主要な幹線道路の整備が進められている。



図：小美玉市総合計画

2 - 2 サインに関連する上位計画等の把握

(1) 茨城県公共事業等景観形成指針（平成7年6月告示）

【策定の趣旨】

公共事業等の実施によって整備される施設は大規模なものが多いため、地域の景観形成に極めて大きな影響を及ぼす。

したがって、公共事業等の実施に当たっては、本県の優れた自然景観や貴重な歴史的・文化的景観を保全するとともに、個性豊かで潤いに満ちた魅力的な景観を創造するため、地域の景観形成に先導的な役割を果たすよう努めなければならない。

【共通指針】

6. 標識・公共広告

整理統合に努め、設置数や場所の適正化を図るとともに、形態、意匠及び色彩等について、設置沿線や地域全体としての統一にも配慮し、周辺景観と調和するよう努める。

整理統合に努め、設置数や場所の適正化を図る。

道路標識等の乱立は大きな景観阻害要因であり、必要な情報だけを的確に伝えるよう設置数や場所の適正化を図ることが必要である。

信号や街灯などと支柱を共用させる。

信号や街灯などと支柱を共用させたり、オーバブリッジ式のシンプルなデザインの支柱を採用するなど、雑然化を防ぐ手法を採用する。

標識の裏面や支柱は暗色にして目立たなくする。

公共広告物は地域内での統一デザインを検討する。

公共広告物については、市町村などにおいて、地域特性を考慮したサイン計画を策定するなど統一したデザインにすることが望ましい。

案内標識はわかりやすく、景観に配慮したものとする。

観光地やレジャー施設等への案内標識は、絵柄や写真を取り入れるなどわかりやすくするとともに、乱立を避け集合案内板を利用するなど、景観に配慮したものとする。

【個別指針】

1. 道路

(4) 交差点

交通ネットワークの結節点であると同時に、景観上の要所でもあるため、個性的な景観形成に努める。

また、交差点に設置される道路標識、信号機、照明施設等については、できる限り整理統合に努めると共に、景勝地等においては、周辺景観を考慮した形態、意匠について工夫する。

(2) 小美玉市総合計画(平成20年3月発行)

【策定の趣旨】

小美玉市においては、合併と言う基本的な枠組みの変化に加えて、少子高齢化の急速な進展、高度通信社会の到来、環境問題の深刻化、産業構造の高度化など、社会経済情勢が大きく変化する中、文献の進展や厳しい財政状況を踏まえた対応が求められている。

このような中で、各地域が持つポテンシャルを高めながら、本市が一体となって共生・連携し、さらには、他の圏域と交流していくことにより、自立した小美玉市の創造と、地域の特性を生かした個性溢れる地域の形成を目指し、広い視野、計画的な視点に立ち、まちづくりの総合的な指針として策定する。

【基本計画】

『未来を拓く快適・便利なまち』

道路体系の充実

広域及び市内地域間の交流と連携を強化するため、広域幹線道路と市内幹線道路の良好な道路ネットワークの構築を目指すとともに、交通弱者に配慮した安全快適な道路環境の整備に努める。

個別施策

「身近な道路環境の充実」

- ・市民及び来訪者が円滑に目的地に到達できるよう、案内機能を充実させるとともに、周囲の景観にも配慮したサイン整備を推進する。

(3)(旧)美野里町サインシステム基本計画(平成6年10月発行)

【計画の目的】

住民はもとより、来訪者等に対する案内機能を、十分に備えたサイン計画を考えることが基本だが、それに加え景観的・演出的視点からも、サイン類のあり方を十分検討し、これまでの公共サインの領域に捉われず、公共サインを新たに整理し秩序立て、美野里町にふさわしいサインデザインを策定することを目的とする。

【計画の考え方】

前提条件の整理で美野里町の「顔」となる所(地区・地点・行事) 将来そうなるであろう場所を上位計画・現況調査・関連計画の整理等を行い位置付けていく。そして、それぞれ計画を進め(地域性、個性、景観性を十分に検討する)、サインのコンセプト(景観のコンセプト)を十分に検討し、この考え方をもとに美野里町全域のサインデザインに反映する。このようにこれらの地区・地点を重点的に計画することが美野里町のイメージ(個性)を確立すると考える。

【デザインコンセプト及び、デザインコンセプトへの応用】

美野里町のイメージを彷彿とさせる爽やかで自然な色としてまた、景観的な側面からも周囲の色に溶け込まず、目立ちすぎずニュートラルな色として

.....**緑**

牧歌的でのんびりとした、やさしい町をイメージさせる色として温かみのある色

.....**ベージュ**

機能、景観の両側面から捉え飽きの来ない、長い期間親しまれる造詣として

.....**オーソドックスでシンプルな形**

コミュニティ活動や将来の美野里町の四季を連想させ、町花でもある。また、花の赤や黄は躍動感や将来性を示す

.....**カンナ**

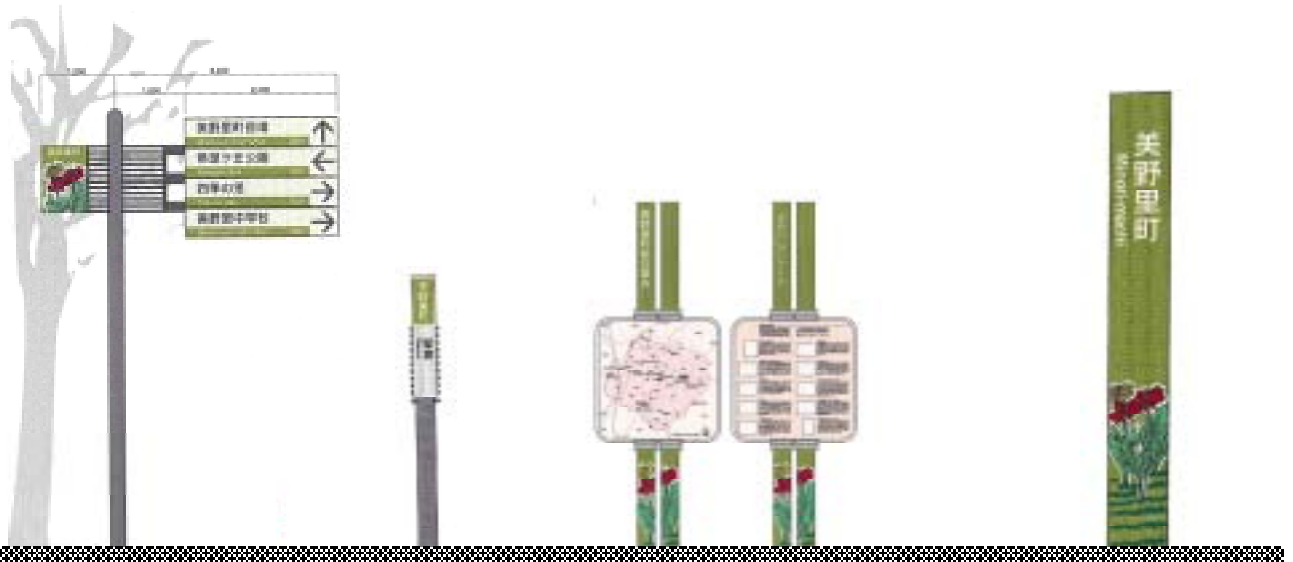
カンナをサインのワンポイントとして利用し美野里町のイメージを創り出す。

サインの一部、カンナのバックにまた、デザイン性が乏しくなる車両系に積極的に緑を使用する。

機能、景観の両側面から捉え飽きの来ない、長い期間親しまれる造詣として
.....**オーソドックスでシンプルな形**

本体形状は上で述べた項目が生かせるようなシンプルで分かりやすいデザインとする。特に車両系は制約が多いため支柱部分は通常の丸パイプとすることが求められる。

【サインデザイン例】



車両系誘導サイン

大字名

大拠点
(総合案内)

町名記名
(ゲートサイン)

図:美野里町サインシステム基本計画

2 - 3 サインの現況（サインシステムの整備状況の把握）

サインの現況を、「サイン本体」と「サインシステム」の2つの視点で把握する。

（1）『サイン本体』の視点から見る現況

本市は、これまでも合併前の各町村で独自のサイン整備を実施してきた。旧町村地区・サインの種類ごとにまとめると、以下のようになる。

		小川地区	美野里地区	玉里地区
サイン本体	誘導サイン			
	定点サイン	a) ゲートサイン 		
		b) 地点名称サイン (大字名) 		
	案内サイン			

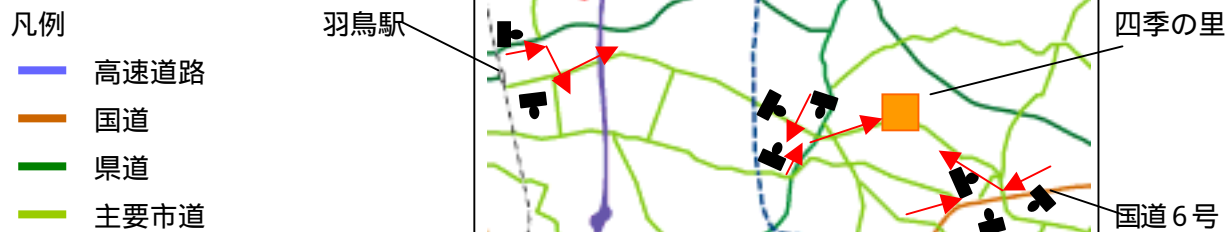
以下、旧町村地区・サインの種類ごとの現況のまとめである。

		小川地区	美野里地区	玉里地区
誘導サイン		<ul style="list-style-type: none"> 本体はいずれも鉄製で、一部は錆が出て、補修が必要である。 表示はいずれも視認性が保たれている。 サインが小さかったり、設置された場所が奥まっていたりして、見えにくいサインがある。 デザインや形状が多様である。 	<p>【旧美野里町サインシステム計画のサイン】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本体は塗装の退色が見られるが、使用に全く支障がない。 表示は最初に設置された分の退色が進み、やや見にくくなっている。 表示面の剥がれや汚れで判読しにくいものがある。一方、追加で設置された分はほとんど退色していない。 文字数が多かったり、距離の描かれた色が目立たなかったりと、一目で理解しにくいものがある。 <p>【その他のサイン】</p> <ul style="list-style-type: none"> 形状は多様である。多くは角鋼管製の本体で、一部に錆が出て、補修が必要なものがある。 同じ施設を誘導しているものの、デザインが異なるサインがある。 	<p>【コンクリート擬木製サイン】</p> <ul style="list-style-type: none"> 旧玉里村内に広く設置されている。 本体は退色が見られるが使用に全く支障がない。 表示は退色が著しく、訂正のプレートを貼り付けて見苦しいものも多い。 周囲の樹木に紛れて、気付きにくいものがある。 車から見るには文字数が多く、また文字が小さいため、分かりにくい。 <p>【その他のサイン】</p> <ul style="list-style-type: none"> 形状は一本柱型のものが多い。 本体はいずれも鉄製で、一部は錆が出て、補修が必要である。 表示は一部に退色して見にくいものが見られる。
	定点サイン	a) ゲートサイン	<ul style="list-style-type: none"> 本体には若干錆があるものの使用に支障ない。 表示は退色した後に、合併後シールが貼られている。 周囲の樹木に紛れて、気付きにくいものがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 本体、表示共にあまり老朽化しておらず、使用に支障ない。
	b) 地点名称サイン (大字名)			
案内サイン			<ul style="list-style-type: none"> 旧美野里町サイン計画のサイン：本体は退色しているものの、当分の使用には耐えうる状態である。 全個所で表示板が外されており、機能していない。 	

(2) 『サインシステム』の視点から見る現況

本市においては、旧美野里町及び旧玉里村で独自のサインを整備した経緯がある。以下に旧町村のサインシステムの現況について検証する。

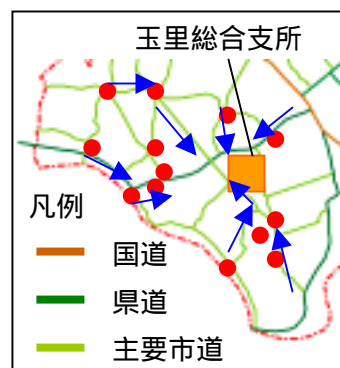
検証1：旧美野里町（四季文化館「みの～れ」及び四季健康館を目的地とした場合）



- ・ JR 羽鳥駅及び、直近の国道・県道から誘導されている。
- ・ パネルの順序や誘導施設が旧計画から変更されているサインがある（四季の里については、計画ではパネル一枚で「四季の里」を誘導するようになっていたが、実際は「文化館」と「健康館」の2枚のプレートに分かれている）。また、設置箇所が旧計画と変更されているサインも存在する。

検証2：旧玉里村（玉里総合支所を目的地とした場合）

- ・ 玉里地区に多く設置されている矢羽型の誘導サインは、その大きさや形状から歩行者に適していると考えられるが、実際には殆ど歩道の整備されていない道路に設置されている。また、場合によっては交差点を渡った先に配置されていることもあり、車両から見る場合には危険なことがある。
- ・ 設置箇所が多く、また間道への誘導もあるため、地区外からの来訪者にとってはかえって混乱しやすいこともある。
- ・ 支所の面している県道 144 号と、直近の国道・主要市道との交差点に誘導サインが設置されていない。



(3) サイン及びサインシステムの現況のまとめ

- ・ 旧システムに則って設置されたサインと、その他のサインとでデザインや形状に統一性が無い。
- ・ 旧システムに則って設置されたサインについては、本体は若干の傷や老朽化が見受けられるが、メンテナンスを行うことによって十分継続的な使用が可能である。
- ・ 旧美野里町のサインシステムの中には計画に従って設置されていないサインも存在するが、駅からの誘導、直近の国道・県道からの誘導はなされている。
- ・ 旧玉里村のサインシステムは、設置箇所の多さや間道への誘導等、地区外からの来訪者には分かりにくいものとなっている。

2 - 4 課題

「2 - 3 サインの現況（サインシステムの整備状況の把握）」を踏まえ、サイン整備に向けた課題を整理する。

(1) 「サイン本体」の視点から見た課題

サインのデザイン及び形状の統一

旧町村の各地区内において、サインシステムに従って整備されたサインとシステム外のサインとで、デザインや形状が異なっている。また、旧町村地区毎においても、サインシステムが異なるため、デザインや形状が異なるものとなっている。デザインや形状の違いは誘導サインの判別に支障をきたすため、統一する必要がある。

旧美野里町の誘導サイン



旧玉里村の誘導サイン



視認性の確保

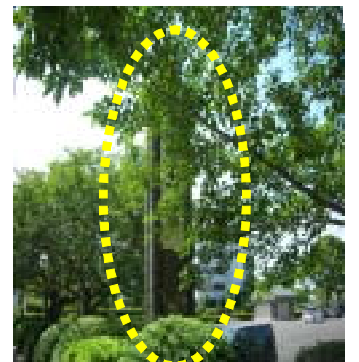
サインの機能として表示面は最も重要であるため、表示面の退色やシールの剥がれ等の修繕・改修及び、表示面を覆い隠す周囲の樹木等の管理が必要である。

また、文字数が多かたり周囲に紛れて気づきにくかったりと、一見して分かりにくいサインがあり、誰にでも分かりやすいシンプルなサインの整備が必要である。

表面が剥離しているサイン



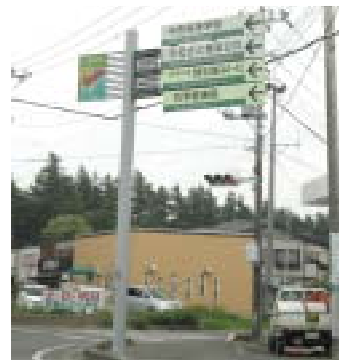
樹木に覆われているサイン



既存のサインの利活用

特に美野里地区における誘導サインの本体に関しては、使用に支障が無いサインが殆どであるため、既存のサインを活用したサイン整備が必要である。

サイン本体は再利用が可能



(2) 「サインシステム」の視点から見た課題

誘導対象施設の明確化及び

市外からの来訪者等が快適に目的地にたどり着くよう、誘導対象施設を明確にする必要がある。その上で公共性、誘導・案内の必要性を鑑みて、更に誘導対象施設を区分する必要がある。

的確な誘導

サイン利用者が安心かつ快適にサインを利用できるよう、必要最低限のサイン配置によって、的確に誘導することが必要である。

(3) 課題のまとめ

老朽度

誘導施設の名称の変更や文字の退色等のために、上からシールを貼り直しているサインや、表示面の剥がれているサインがみられる。これらのサインは、景観的にも粗悪になり、まちのイメージを悪くしている。

退色、又は施設の名称変更によってシールを貼りなおしているサイン



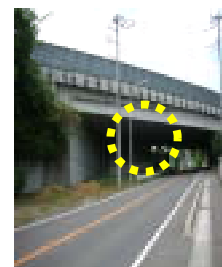
視認性

樹木等に覆われて整備したサインが見にくくなっているものがみられる。

また、他のサインに紛れていたり、小さかったり、奥まった場所に設置されていて気づきにくいサインがある。

看板に紛れて気づきにくいサイン

見過ごしやすいサイン



統一性

市内には、同じ施設を誘導している、又は同じ内容を記しているサインであっても、大きやデザイン(色・形)が異なるものがみられる。また、誘導施設の名称が統一されていないサインもみられる。これらは、景観を損ねる要素になっている。

字名を表すサイン

